

新規事項

# 水害リスク情報の充実(浸水想定区域図・ハザードマップの空白域の解消) (1/2)

- 近年、中小河川等の水害リスク情報の提供を行っていない水害リスク情報の空白域で多くの浸水被害が発生。
  - 水害リスク情報の空白域を解消するため、水防法を改正し、浸水想定区域図及びハザードマップの作成・公表の対象を全ての一級・二級河川や下水道※に拡大。
  - 洪水浸水想定区域図は令和7年度までに完了を目指し、雨水出水浸水想定区域図は令和7年度までに8割完了を目指す。
- ※全ての一級・二級河川や下水道とは、住宅等の防護対象のある全ての一級・二級河川や浸水対策を目的として整備された下水道のこと。

## ■水害リスク情報の空白域において浸水被害が多発

・令和元年東日本台風では、堤防が決壊した71河川のうち43河川(約6割)、内水氾濫による浸水被害が発生した135市区町村のうち126市区町村(約9割)が水害リスク情報の空白域。

水害リスク情報の空白域における水害事例

**宮城県丸森町**

水害リスク情報空白域における浸水被害

凡例  
×: 人的被害

まるもりまち あざしんめいのみなみちない  
丸森町(字神明南地内)の被災状況  
(令和元年東日本台風)

**佐賀県佐賀市**

中心市街地の浸水  
(令和元年8月の前線に伴う大雨)

## ■水防法を改正し、浸水想定区域の指定対象を拡大

・河川(洪水浸水想定区域)では約15,000河川、下水道(雨水出水浸水想定区域)では約1,000団体が新たに指定対象として追加。

**河川**

水位周知河川  
洪水予報河川

改正前 約2,000河川

住宅等の防護対象のある中小河川

水防法改正により拡大 約15,000河川

**下水道**

水位周知下水道

改正前 約20団体

住宅等の防護対象のある下水道

水防法改正により拡大 約1,000団体

新たに指定対象となる河川及びその洪水浸水想定区域(イメージ)  
公表されている洪水浸水想定区域

浸水想定区域(洪水及び雨水出水)の指定対象数

指定対象河川の拡大イメージ

	浸水想定区域図	ハザードマップ
河川(洪水)	令和7年度までに完了※	令和8年度までに完了目標
下水道(雨水出水)	令和7年度までに約800団体完了※	浸水想定区域図作成後速やかに作成

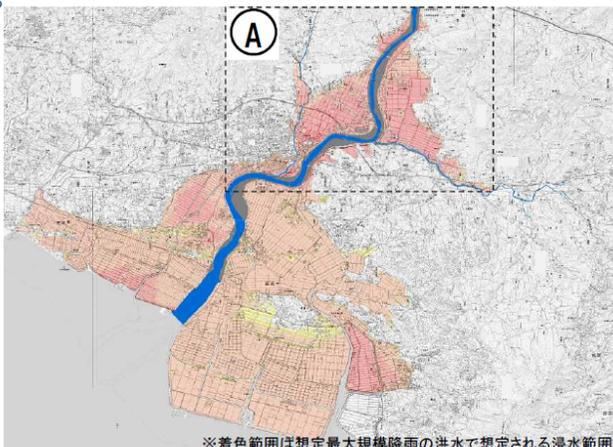
※ 第5次社会資本整備重点計画KPIIIに位置付け

# 水害リスク情報の充実(水害リスクマップ(浸水頻度図)の整備)

- 従来、想定最大規模降雨の洪水で想定される浸水深を表示した水害ハザードマップを提供し、洪水時の円滑かつ迅速な避難確保等を促進。
- 今後は、これに加えて、浸水範囲と浸水頻度の関係をわかりやすく図示した「水害リスクマップ(浸水頻度図)」を新たに整備し、水害リスク情報の充実を図り、防災・減災のための土地利用等を促進。

## 水害リスク情報の充実

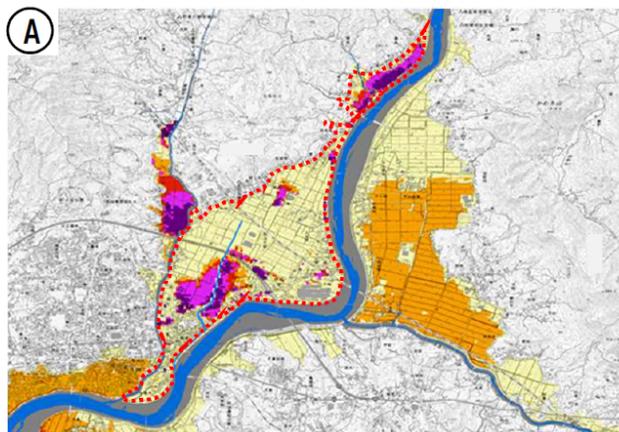
### ○水害ハザードマップ



### ○水害リスクマップ<sup>※1</sup>



※2 上記凡例の( )内の数値は確率規模を示していますが、これは例示です。



※1 当資料の水害リスクマップは床上浸水相当(50cm以上)の浸水が発生する範囲を示しています。(暫定版)

## 水害リスクマップの活用イメージ

現在の水害リスクと今後実施する河川整備の効果を反映した将来の水害リスクを提示し、以下に取り組む

- 住居・企業の立地誘導・立地選択や水害保険への反映等に活用することで、水害リスクを踏まえた土地利用・住まい方の工夫等を促進
- 企業BCPへの反映を促進することで、洪水時の事業資産の損害を最小限にとどめることにより、事業の継続・早期復旧を図る

現在(外水氾濫のみ)

整備後(外水氾濫のみ)



### 【令和4年度の国土交通省としての取組】

- ・全国109の一級水系において、外水氾濫を対象とした水害リスクマップの作成を完了させるとともに、先行して、特定都市河川や水災害リスクを踏まえた防災まちづくりに取り組む地区において、内水も考慮した水害リスクマップを作成

# 令和3年度 湧別川・渚滑川流域治水協議会（勉強会） 速報版

## －住民参加を取り入れた流域治水の取組－

令和3年12月21日に上湧別コミュニティセンターにおいて、「令和3年度 湧別川流域治水協議会（勉強会）、渚滑川流域治水協議会（勉強会）」を開催しました。

- 開催日時 令和3年12月21日(金) 14:00 ～ 16:30
- 実施場所 上湧別コミュニティセンター 2階大会議室
- 参加機関 湧別町、湧別町自治会連合会、遠軽町、遠軽地区自治会連合会、紋別市、オホーツク総合振興局、網走開発建設部 計 7機関 18名
- 勉強会の目的
  - ① リスクマップがどのようなもので、どのような情報が得られるのかを理解する
  - ② 今後の水災害に関するハザード情報（リスクマップの情報）の扱い方を理解する
  - ③ リスクマップに対する自治体・地域住民の目線で見えた場合の意見を伺う

### 1. 流域治水及びリスクマップの説明

近年の水災害発生状況や、流域治水の概要と全国での取組事例、リスクマップの必要性のほか、現在公表されている浸水想定区域図とリスクマップの相違点等を説明しました。



事務局からの説明状況

### 2. リスクマップの確認、意見交換

湧別川と渚滑川に分かれ、リスクマップの見方について説明を行った後、「リスクマップチェックシート」等を用いてそれぞれの河川で事務局が設定した対象地点2か所と、参加者が選んでいただいた任意地点2か所のほか、個人の懸念箇所の浸水リスク情報を確認し意見交換を行いました。



リスクマップ確認状況



2. リスクマップチェック資料(1地点目)

(1) 確認地点はどこですか？

(2) 確認箇所の浸水はどのような状況ですか？

期間 (2年程度)	60cm以上浸水	50cm以上浸水	3m以上浸水	備考
高頻度(1/10)				
中高頻度(1/30)				
中頻度(1/50)				
中低頻度(1/100)				
短期 (2年程度)	60cm以上浸水	50cm以上浸水	3m以上浸水	備考
高頻度(1/10)				
中高頻度(1/30)				
中頻度(1/50)				
中低頻度(1/100)				
中長期 (湧別川・渚滑川年度末 遠軽町 年度末年度)	60cm以上浸水	50cm以上浸水	3m以上浸水	備考
高頻度(1/10)				
中高頻度(1/30)				
中頻度(1/50)				
中低頻度(1/100)				
想定最大規模				

(3) 確認地点付近で気になった点

リスクマップチェックシート

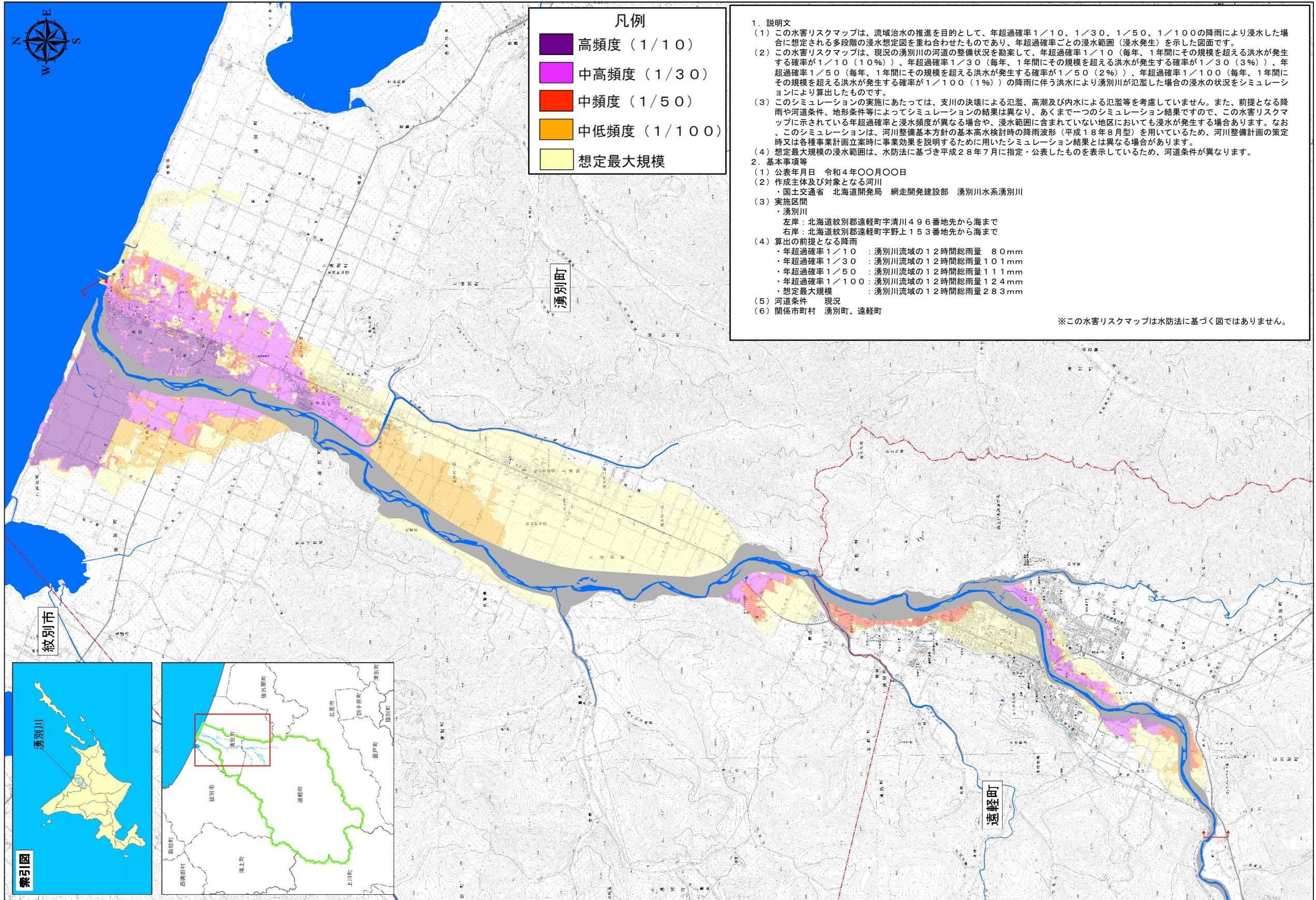
### 自治体職員、住民からの主なご意見

- 実際にリスクマップを見た今回の経験を、今後の防災訓練等に活かしたい。
- 今までの想定最大規模の浸水想定区域図と違い、様々なリスクに基づくリスクマップがあり便利だと思う。しかし、リスクマップの枚数が多いので、住民に対するわかりやすい説明の仕方や配布方法等を今後検討していきたい。
- 年に1度、災害対策本部で実施している図上訓練にリスクマップを活用し、より理解を深めていきたい。
- 実際に地域住民にわかりやすく説明する方法を模索していきたい。
- 浸水深はそれほど大きくないが、雨量が多くなると影響が出るのでその際はリスクマップを活用していきたい。
- 地域住民としては、言葉そのものの理解が難しいと感じる。地域住民にわかりやすく説明することが今後の課題だと考える。
- 勉強会で、段階的に図面を見て説明を受け、身近に感じるとともに危機感を持つことができた。今後も、今回のような勉強会を継続していくことで、身近に感じられると思う。

暫定版

【現況河道】

浸水が想定される範囲を表示



- 凡例
- 高頻度 (1/10)
  - 中高頻度 (1/30)
  - 中頻度 (1/50)
  - 中低頻度 (1/100)
  - 想定最大規模

1. 説明文
    - (1) この水害リスクマップは、流域治水の推進を目的として、年超過確率1/10、1/30、1/50、1/100の降雨により浸水した場合に想定される多段階の浸水想定図を重ね合わせたものであり、年超過確率ごとの浸水範囲（浸水発生）を示した図面です。
    - (2) この水害リスクマップは、現況の湧別川の河道の整備状況を勘案して、年超過確率1/10（毎年、1年間にその規模を超える洪水が発生する確率が1/10（10%））、年超過確率1/30（毎年、1年間にその規模を超える洪水が発生する確率が1/30（3%））、年超過確率1/50（毎年、1年間にその規模を超える洪水が発生する確率が1/50（2%））、年超過確率1/100（毎年、1年間にその規模を超える洪水が発生する確率が1/100（1%））の降雨に伴う洪水により湧別川が氾濫した場合の浸水の状況をシミュレーションにより算出したものです。
    - (3) このシミュレーションの実施にあたっては、支川の決壊による氾濫、高潮及び内水による氾濫等を考慮していません。また、前提となる降雨や河道条件、地形条件等によってシミュレーションの結果は異なり、あくまで一つのシミュレーション結果ですので、この水害リスクマップに示されている年超過確率と浸水頻度が異なる場合や、浸水範囲に含まれていない地区においても浸水が発生する場合があります。なお、このシミュレーションは、河川整備基本方針の基本高水検討時の降雨波形（平成18年8月型）を用いているため、河川整備計画の策定時又は各種事業計画立案時に事業効果を説明するために用いたシミュレーション結果とは異なる場合があります。
    - (4) 想定最大規模の浸水範囲は、水防法に基づき平成28年7月に指定・公表したものを表示しているため、河道条件が異なります。
  2. 基本事項等
    - (1) 公表年月日 令和4年〇〇月〇〇日
    - (2) 作成主体及び対象となる河川
      - ・国土交通省 北海道開発局 網走開発建設部 湧別川水系湧別川
    - (3) 実施区間
      - ・湧別川
      - 左岸：北海道紋別郡遠軽町字清川496番地先から海まで
      - 右岸：北海道紋別郡遠軽町字野上153番地先から海まで
    - (4) 算出の前提となる降雨
      - ・年超過確率1/10：湧別川流域の12時間総雨量 80mm
      - ・年超過確率1/30：湧別川流域の12時間総雨量 101mm
      - ・年超過確率1/50：湧別川流域の12時間総雨量 111mm
      - ・年超過確率1/100：湧別川流域の12時間総雨量 124mm
      - ・想定最大規模：湧別川流域の12時間総雨量 283mm
    - (5) 河道条件 現況
    - (6) 関係市町村 湧別町、遠軽町
- ※この水害リスクマップは水防法に基づく図ではありません。

索引図



## 【現況河道】

